

コーヒーへの支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

皆さんは、10月1日が「コーヒーの日」^{注1)}ということをご存じでしょうか？そこで、今月はコーヒーへの支出についてみてみましょう。

注1) 国際協定によって、コーヒー豆の収穫年度の始まりが10月1日と定められていること、日本では秋も深まり温かいコーヒーの美味しい季節を迎える頃ということから、(社)全日本コーヒー協会が1983年に定めています。

コーヒーは年末、コーヒー飲料は夏場に支出が増加

コーヒー及びコーヒー飲料^{注2)}について、1世帯当たりの支出金額（平成16～18年平均）を月別にみると、コーヒーへの支出は11月、12月と年末の支出が多くなっています。一方、コーヒー飲料は、7月、8月と夏場の支出が多くなっています（図1）。

注2) 「コーヒー」とは粒、粉末及び固体のものをいい、「コーヒー飲料」とは缶などの容器に入った液体のものをいいます。なお、喫茶店及び飲食店等で飲むコーヒーは、家計調査では外食に分類されており、コーヒー及びコーヒー飲料には含まれていません。

コーヒー及びコーヒー飲料への支出は共に増加傾向

次に、世帯員1人当たりの支出金額を、価格の変動分を除き平成12年を100とした実質金額指数でみると、コーヒー及びコーヒー飲料への支出は共に増加傾向にあり、18年は12年に比べて、コーヒーは約2割、コーヒー飲料も約3割増加しています（図2）。

コーヒーへの支出が多い60～69歳の世帯

最後に、平成18年の世帯員1人当たりの年間支出金額を、世帯主の年齢階級別にみると、コーヒーは60～69歳の世帯が最も多くなっています。一方、コーヒー飲料は30～39歳の世帯が最も多く、次いで29歳以下の世帯が多くなっています（図3）。

図1 月別支出金額(平成16～18年平均)

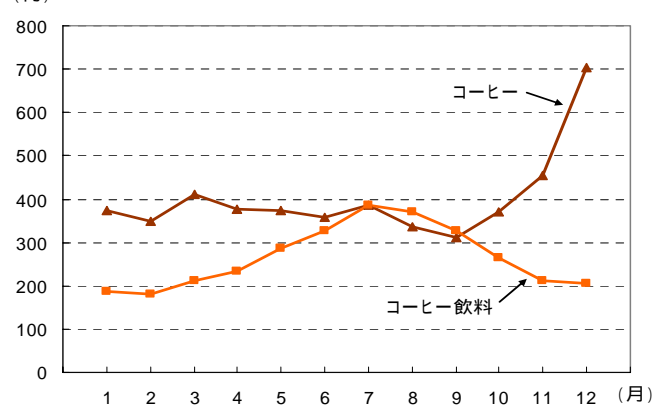


図2 世帯員1人当たりの実質金額指数 (平成12年=100)

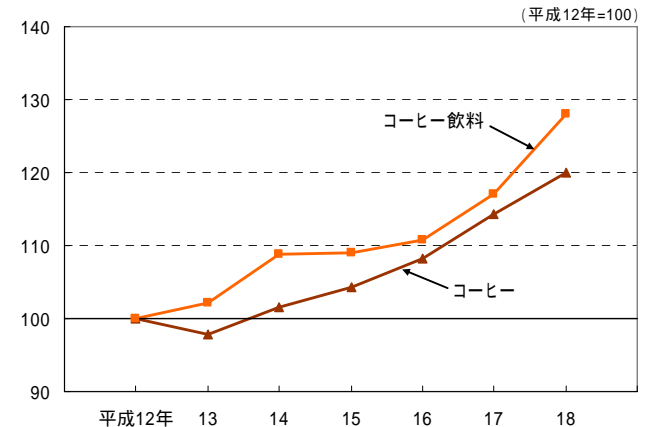


図3 世帯主の年齢階級別世帯員1人当たりの支出金額(平成18年)

